

## 2013年 第78回年会 男女共同参画委員会企画「女性賞受賞講演会」報告

大阪大学で開催された第78回年会3日目、男女共同参画委員会では第2回「女性賞受賞講演会」を開催しました。事前申し込みは5名と少なかったものの、当日は学生から企業の方まで幅広い参加者層、約40名の方にお越しいただきました。4月からサバティカルを利用して渡米する宮崎あかね男女共同参画委員会副委員長の爽やかな司会で、会は和やかに進行しました。

お1人目の受賞者は、現在シンガポール在住、昨年夏からスタートした合成ゴム新規工場の立ち上げにかかわっていらっしゃる旭化成ケミカルズ(株) 仲二見裕美様でした。

「マインドマップを活用して仕事を進める」、「女性リーダーに慣れていないことへの気遣い」「会議の価値を反映する議事録が大切」など、随所に日頃の仕事への真摯な姿勢が表れたご講演。基礎研究部門に始まり、一時期はWEBを手掛け、その後の品質管理部門や工場での勤務まで、20年以上の多彩な経歴が今の自分を作っているとの説明はとても説得力がありました。そして現場では「品質管理新聞(Quality Control news)」を発行し、製品への誇りと成果を皆で喜ぶことを実践するなど、創意工夫をされていらっしゃる様子も仲二見様ならではの印象的でした。

プレゼンテーション後半では、伝えたいことを明確に5項目にまとめてくださいました。1)化学の真理は平等：女性は生きやすい世界とも言える。 2)つながる：すべての仕事は有機的につながっている、すべての仕事に嫌がらずに取り組んでほしい。 3)自分の仕事の受け手は誰か：次工程を意識して 4)愛を持って：感謝される仕事をしたい思いは共通、チーム全員が生き活きと働くことのできる職場を。 5)一番大切なのは笑顔：君が笑えばみんなが笑う。そして、講演の締め括りに、支えてくれた子供への感謝を述べられました。

中学生と高校生の二人のお子さんは、シンガポールのインターナショナルスクールがとても気に入っていらっしゃるって、今回もお二人をシンガポールに残しての来日。子供との対話にも笑顔と愛情を注ぎ、素敵な信頼関係を構築されている仲二見様のご家庭も目に浮かぶエピソードでした。

お2人目の受賞者は、崇城大学生物生命学部応用生命科学科教授 松本陽子先生、ご発表タイトルは「リポソームによるがん治療～副作用のない薬剤開発～」でした。バッファー中で超音波により有機溶媒を必要としない方法で調整したリポソーム(二分子膜小胞体)は、リポソームの素材や組成を変えてサイズや性質を制御出来、それ自身でがん細胞の増殖を抑制することを上岡龍一教授とともに発見。膜の流動性が大きいハイブリッドリポソームの活用により、異常増殖するがん細胞膜に選択的に融合し、アポトーシス(細胞が自ら生命を絶つ自殺機構)を起こすこと等、新しいがん治療のアプローチについて説明いただきました。肺がんマウスの長期延命に成功され、乳がんにも、沈黙の臓器と言われる肝臓がんにも効果を確認。肝転移を抑制した2005年の論文では、日本小児外科学会から優秀論文賞を受賞されています。生命倫理委員会承認後の臨床応用においては、悪性リンパ腫の患者の固形リンパ腫の縮小や副作用が無いことを確認されています。さらにはエイズ治療薬やリウマチ、筋ジストロフィー治療薬など多様な難治性疾患治療へも研究は展開中。「異常増殖する細胞膜の揺らぎを標的とする疾患治療」

の可能性と実治療への広がり、将来がとても期待できる、医工連携の研究領域と感じました。

ご講演の後半では、2007-2008年の化学工学会男女共同参画委員長としての活動にも言及されました。「化学工学会の一般会員女性比率は学生女性会員の5分の1」の実態を変えるため、一般会員の女性増強を図る目的で、外部講師を招いての講演会や女子学生のためのイブニングセミナー、交流会の開催など、松本先生は委員長として、様々な企画に取り組みられました。現在に繋がる化学工学会男女共同参画委員会の活動の地固めをされたことを改めて感じました。

全体会終了後、場所を博物館隣のカフェに写し、受賞者と委員、講演に来て下さった方もお招きして、ネットワーク作りの時間を持ちました。受賞講演をきっかけとした新しい会員同士のつながりも大切にしていきたいと考えております。

女性賞は、会員の目標となるロールモデルとしての女性を選び、化学工学会として男女共同参画をより推進する活動の一環です。今後も、ふさわしい実績の方を自薦・他薦いただきますようお願いいたします。男女共同参画委員会でも、会員数の増強はもちろん、ワークライフバランスも充実した毎日のために、質と量双方の面からダイバーシティ社会実現に向けて尽力したいと考えております。

